

状態・経過別看護実習

目的

成人・老年期にある対象を生活者として総合的に理解し、対象の発達段階の特徴および健康レベルに応じた健康問題の解決や、健康課題の達成に向けての看護実践能力を養う。

目標

1. 成人各期および老年期における対象を、身体・心理・社会的側面からとらえ、生活者として統合的に理解できる。
2. 対象の健康障害について、現在に至るまでの経過を加齢変化に伴う特徴から関連付けて理解する。
3. 主要疾患と治療・検査を関連付けて理解し、看護に必要な援助技術が実践できる。
4. 対象の健康障害が、心身および日常生活や今後の生活に与える影響を考え、健康レベルおよび状態に応じた援助が安全・安楽に実施できる。
5. 対象に応じたコミュニケーション技術を身につけ、自立・自律、生活信条、信念、価値観を尊重した行動がとれる。
6. 継続看護の重要性や、多様な生活の場におけるソーシャルサポートの必要性と支援が理解できる。
7. 保健医療福祉チームの一員として、自覚と責任のある行動がとれる。

状態・経過別看護実習 I

(生活援助を必要とする人の看護)

目 的

健康障害により生活援助が必要な対象への看護実践能力を養う。

目 標

1. 成人期・老年期にある対象の健康障害が理解できる。
2. 成人・老年期にある対象の健康障害や加齢変化が、対象の生活機能（身体・心理・社会的側面）に及ぼす影響を捉え、現在必要な生活援助を対象の状態を考慮して安全・安楽に実施できる。
3. 実施した援助について、実施の目的を踏まえ、患者の反応やフィジカルアセスメントの結果から客観的に評価できる。
4. 看護実践と関連させながら倫理的評価が行え、専門職としての倫理観を身に付けることができる。

内 容

1. 日常生活全般に援助を必要とする成人期・老年期にある対象へ、生活援助を実施する。
2. 対象の病理的状态の理解
3. 全体像の把握
 - 1) 健康障害や加齢変化が、対象の身体・心理・社会的側面に及ぼす影響を関連図から把握する。
 - 2) 現在起きている症状や機能障害が何故起きているのかメカニズムを理解する。
 - 3) 行われている生活援助の根拠や観察点を明確にする。
4. 対象に必要な生活援助とその目的・方法を具体的に考える。
5. 健康障害や発達段階の特徴を踏まえ、安全・安楽を考慮した生活援助を実施する。
6. 全身状態の観察とフィジカルアセスメントおよび対象の反応から、生活援助実施の判断や援助の評価を行う。
7. 実践した看護について倫理的視点で振り返り、対象の尊厳や看護の責任について理解する。

方 法

1. 実習開始前に、学内にてオリエンテーションを受ける。
2. 日常生活全般に援助を必要とする成人・老年期にある対象を一人受けもつ。
※対象選定の目安は、必要度 B-II 以上。移動動作に介助を要する患者
3. 全体像（関連図）を記載する。実習 3 日目までに看護計画立案に至る全体像をとらえ、その後も必要時追加し最終ファイル時に完成させる。

4. 実習3日目までに必要な生活援助に着眼し看護計画を立案する。(プロブレムリストと解決策の記載)
5. 看護計画に基づき援助の実施・評価・修正を行う。
6. 実習振り返りとしてレポートの記載
※記録用紙：行動計画、全体像（関連図）、プロブレムリスト、解決策、経過・行動記録、レポート

状態・経過別看護実習Ⅰ評価表

実習病棟 階 病棟 実習期間 月 日～ 月 日 番 学生氏名

評定尺度

A：少しの指導でできた

C：繰り返し指導を受けて少しできた

B：指導を受けながらできた

D：繰り返し指導を受けてもできなかった

| 評価項目 | 評価内容 | 評定 | | | |
|-----------------|---|----|----|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 全体像の把握 | 1. 発達段階の特徴を捉えられる。 | 5 | 3 | 2 | 0 |
| | 2. 対象の健康障害について、治療・検査と関連付けて理解できる。 | 6 | 4 | 3 | 0 |
| | 3. 健康障害や加齢変化が、対象の生活機能（身体・心理・社会的側面）に及ぼす影響を理解できる。 | 6 | 4 | 3 | 0 |
| | 4. 全体像が捉えられる。 | 5 | 4 | 3 | 0 |
| | 5. 長期的視点で望ましい姿を述べられる。 | 5 | 4 | 3 | 0 |
| 安全・安楽な日常生活援助の実施 | 6. 現時点で必要な生活援助に注目した看護計画が立案できる。 | 6 | 4 | 3 | 0 |
| | 7. 立案した看護計画に基づき援助を実施できる。 | 5 | 3 | 2 | 0 |
| | 8. 援助の実施前・中・後で対象の反応を客観的に捉えることができる。 | 5 | 4 | 3 | 0 |
| | 9. 対象の反応や事象について、フィジカルアセスメントの視点で述べられる。 | 5 | 4 | 3 | 0 |
| | 10. 安全・安楽な援助が実施できる。 | 6 | 4 | 2 | 0 |
| | 11. 実施した援助や患者の状態について、正しく報告・相談ができる。 | 5 | 4 | 2 | 0 |
| 実施した援助の評価 | 12. 対象の反応や事実をもとに、看護計画を評価し修正できる。 | 6 | 5 | 3 | 0 |
| | 13. 倫理的視点で実施した援助や、対象との関係について評価できる。 | 5 | 4 | 3 | 0 |
| | | 合計 | 70 | | |

《態度》

| 項目 | | 評価のポイント | A | B | C | D | |
|---------|--|--|---|---|---|----|-----|
| 前に踏み出す力 | 1 主体性 | ・ 指示を待つのではなく自らやるべきことを見つけ、積極的に取り組める | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| | 2 実行力 働きかけ力 | ・ わからないことをそのままにせず、タイムリーに指導者や教員、スタッフ、実習メンバーなどに確認し、解決に向けて取り組むことができる ・ 患者によりよい援助を実施するために、指導者や教員、実習メンバーなどに働きかけることができる ・ 積極的に技術を習得できる | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 考え抜く力 | 3 課題発見力 計画力 創造力 | ・ 実習を客観的に振り返り、自己の課題を述べるができる ・ 課題解決に向けた案を複数考え、それを遂行するための準備ができる ・ 実習全体および日々のスケジュールを常に把握し、優先順位を考えて行動できる ・ よりよい援助の方法を探求している | 5 | 3 | 2 | 1 | |
| チームで働く力 | 4 発信力 状況把握力 | ・ 状況や目的に応じて自分の考えを整理し、他者にわかりやすく簡潔に伝えることができる ・ 自分のできること、できないことを判断し対象、実習メンバー、実習指導者、教員、スタッフなどの状況を踏まえた行動ができる | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| | 5 傾聴力 柔軟性 | ・ 他者の意見や立場を尊重できる ・ 指導者や教員、実習メンバーからの意見や助言を最後まで聞き、相手の意見を正確に理解できる ・ 相手にとって話しやすい状況をつくり、相手の意見を引き出している | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| | 6 規律性 ストレスコントロール力 | ・ 様々な場面で良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守ることができる ・ 周囲に迷惑をかけたとき、誠実に対応できる ・ チームの一員と対象への責任をもち、周囲の協力も得ながら心身の体調管理ができる | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 7 倫理性 | ・ 対象のプライバシーを守り、個人情報の保護に努めることができる ・ 適切な言葉遣いで、状況に応じた行動ができる ・ 対象を主体とした関わりになっているか常に考え行動できる | 5 | 3 | 2 | 1 | 合計 | /30 |

《評定尺度》

A：少しの指導でできた

C：繰り返し指導を受けながらできた

B：指導を受けてできた

D：繰り返し指導を受けて少しできた

実習指導責任者 _____

担当教員 _____

| | |
|-------------|--|
| 総 合 点 | |
|-------------|--|